

冬休みに虹が出た日がありました。

冬休み この辺りは雪は降りませんでした。全国的には大雪。園庭で遊ぶ子どもたちは、風花が舞うだけでも「ゆき！ ゆき！」と大はしゃぎでした。

虹が出ると どうしてわくわく うれしいのでしょうか。

「あ、虹！」 「虹が出てる！」などの声がしたら 部屋の中にいた誰もが、みんな庭へと出ていき 空を見上げます。

薄すらほんやりとした虹でしたが、何だか幸せな気分になりました。

虹を見つけた人は、必ずや誰かにも見てもらいたくて 声を出します。虹が人と人とは橋をかけるのですね。

ゆめじいの言葉も 身体の奥深くで響ります。

“人から生まれる虹の話です。

なるほど 道のないところに それぞれの「私」がそれぞれの 意志で道を見つけながら進んでいく。

人は そうして 世界の作り手となる。

自分に与えられた役割を果たそうと 努めるとき、空にかかる虹のように 人が人へと、未来の世界へとつながる かけ橋としての虹を作り出しているのかもしれない。

きっと 誰かも 世界も、それぞれの「私」が作る虹をよろこんで くれることでしょう！



2023年元旦



子どもたちは 雪が降ると大よろこびです。
寒くても平気です。「降りすぎたら困る」なんて
思わないで、たくさん降って積もってほしいと
願うのですね。

子どもたちは 何とでも すぐに仲良くなれる すごい
力を持っています。

今 目の前のもの、今 響いているもの、今 触れるもの、
今 感じるもの、心動かされるもの……と共に生きられる
力なのかもしれません。

“共に生きる”とは、「周囲のものの中に自分が生き」「周囲のものが
自分の中に生きる」と感じる感覚・生き方なのでしょう。

周囲のものも 自分も 幸せ ですね。

大好きで あんなにわくわく仲良くいたら、雪も さぞうれしい
だろうな!と思いました。

だからなのでしょうか … 子どもたちが眠る夜に しんと降り
雪は、子どもたちが見る夢を大切に包み込むように、静かに見守て
いるみたいに思えます。

2023 (令和5)年が始まりました。

初夢は “共同体への願い”の夢でした。

「共同体をあらためて どう作るか」というテーマのワークショップに参加して
いました。(ちょっぴり不思議なセミナーでしたが…)

夢の後半は 車を運転していて 様々な困難やトラブルがあり、しかし
どうにか いろいろな人との出会いと助けで、何とか乗り越えられそう …と
いう ぎりぎりのものでした。

社会が …… 時代が …… 治癒を求めている、救済を必要としている気がします。
それは、他ならない 今を生きる 私たち自身が、人と人との関係性の中に
求める安らぎと 痛しなのでしょう。

空や海や広大な大地が、人が作る社会の不条理さや共同体の不安定さの
原因も結果も、吸い込み受けとめてくれてきたのでしょう。

天空と大地の間を生きる 私たちは、自然に対しても 共に生きる人々に
対しても、未来に向けて お返しをしないとイケないのだと、切実に思います。

新しい年を 少しでも 心をこめて 過ごせたらと思います。

皆さま、今年も どうぞ よろしくお願ひします。

園長 升光 泰雄